

未来に続く夢

水木 亮

今まで何本ミュージカルを創ってきただろう。振り返れば、みんなといろいろな作品を創り上げる中で、学んだものはたくさんある。

作品は一回だけのものだから、そこに集まりセリフや歌を覚えた記憶、みんなで作り上げたミュージカルの感動は、演じるものはもちろん、観劇した人たちの胸に刻まれて残っている。出演者もやがて大人になる。「ふれこん」の舞台を去って、大人になり社会生活を送るようになって、厳しい社会生活を送りながら、時にみんなで頑張った舞台を思い出し、懐かしくなることもきっとあるだろう。

いつとき、思い出の中に元気が蘇る。それが舞台の良さでもある。苦しいことや嫌なこともあるだろう。しかし、ドラマの感動が最終的に自分に元気をくれる。

長くこの活動を支援している人々がいる。とても貴重な人材である。その人たちに感謝を忘れないようにしよう。長い支援はもちろんのこと、人はたとえつかの間でも、自分に喜びの夢をくれた人のことを忘れないようにしたい。

長く「ふれこん」に関り、いつも思うのは寄り添うお母さんたちのことである。素晴らしいお母さんがそばにいることはとてもありがたいことだ。ミュージカルも子供たちと一緒に出演し、普通なら御免こうむりたいような役でも明るく気持ちよく参加してくれる。中々出来ないことだとも思う。いろいろなお母さんに出会ったことも私の学びの思い出になる。

その昔、ミュージカルでからだ中に風船を付けて踊る場面があった。自分でもそんなことをしてくれるだろうかためらいもあった。見た目には楽しいが、そんなスタイルを演じることはみんな嫌がるはずであった。しかし、その方は笑顔で体中に風船をつけて、楽しく踊ってくれた姿が今でも忘れられない。

継続は力なりという言葉があるが、みんなが継続してその手を差し出すこと、それがみんなの夢に繋がることを信じて、この集まりがはるか未来に続くことを期待している。

